

荒尾市民病院新病院建設基本計画（案）答申 議事録

◇日 時：平成27年1月28日（水）15時30分から16時20分まで

◇場 所：荒尾市役所 2階 市長公室

◇出席者：

【検討会委員】・・・4名

小野友道氏（熊本保健科学大学学長）、藤瀬隆司氏（荒尾市医師会会長）、鴻江圭子氏（市民代表）、坂井誠子氏（荒尾市社会福祉協議会会長）、

※下條寛二氏（株式会社 近代経営研究所専務取締役）、立石和裕氏（立石公認会計士事務所代表）、林田由美氏（有明保健所所長）、福島和代氏（九州看護福祉大学教授）は欠席

【荒尾市】・・・9名

山下市長、浅田総務部長、小川保健福祉部長、石川政策企画課長、片山総務課長、橋本財政課長、松尾病院建替準備室長、中川副主任、宮本主事

【荒尾市民病院】・・・9名

大嶋病院事業管理者、荒牧副院長兼事務部長、西村看護部長、荒木クオリティマネージャー、中野経営企画課長、野村総務課長、前田医事課長、塩塚経営企画課長補佐、西山参事

【システム環境研究所】・・・2名

佐藤福岡事務所長、小塩チーフコンサルタント

以上、出席者計 25名

石川政策企画課長の開会宣言後、小野会長から山下市長へ「荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する点検・評価報告書」の提出及び「荒尾市民病院新病院建設基本計画（案）」の答申がなされ、市長挨拶に続き、あり方検討会委員と市長との意見交換、報道機関からの質疑が行われた。

【市長挨拶】

山下市長 この度は、小野会長、藤瀬副会長をはじめ、市民病院のあり方検討委員会の委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、市民病院の経営に係る通常の「点検・評価」に加え、建て替えなどに関して長期にわたり精力的にご検討くださいますこと誠にありがとうございます。皆様方のご尽力に対しまして、深く御礼を申し上げます。

今、小野会長より、ありがたいお言葉を添えて、答申をいただきました。これまでご検討された内容を、参考にさせていただき、市民の理解を得ながら、市民病院の現状を考えますと、市としての方針をできるだけ速やかに示していかなければならないと考えております。

しかしながら、市民からは建て替え場所などについて、なかなか理解が得られているとは言い難い現状がございます。

そのため、これまでのご検討の結果を十分受け止めながら、建て替え場所などについて、検討が必要であると考えております。

そこで、より市民の意見を踏まえた検討を進めていくため、素晴ら

しい委員の皆様方がお集まりになっておられるこの「あり方検討委員会」をベースに一般の市民の方にも参加をいただくなど、新しい「あり方検討委員会」として新たに立ち上げてまいりたいと考えております。

また、総務省から新たな『公立病院改革策定ガイドライン』が本年度内に提示され、これに基づき次年度からの中期健全化計画の策定が見込まれますことから、策定後の第三者機関による「点検・評価」は今後とも必要となります。

皆様方におかれましては、引き続き経営に関する「点検・評価」とともに、建て替え場所などの検討につきましては、新しいあり方検討委員会でご検討いただきたく、よろしくご理解をいただきますようお願い申し上げます。

今後とも市政運営に際しまして、皆様方のご理解とご支援を賜りますよう心からお願いを申し上げます、私からの御礼の挨拶とさせていただきます。

会長、副会長、委員の皆さん、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお導きをお願いいたします。

【あり方検討会委員と市長との意見交換】

鴻江委員 長きにわたりまして、私たちの検討会で審議をしたんですけれども、市長さんのお考えの中で、今の荒尾市民病院の場所に（新病院を）お建てになるということですが、具体的な案を持って宣言されたんでしょうか。その辺をお聞かせ願いたいと思います。

山下市長 私の今の考え方の一端を（冒頭挨拶で）述べさせていただきましたが、私は市民病院の建て替えは必要であると思っております。（市民病院の）現場についても十分把握をさせていただいて、これ以上今の（老朽化した）状況（で病院運営）を続けることは厳しいと思っております。ですから、建て替えは必要だと思っております。

また、これまでの（あり方検討会での）検討結果では、競馬場跡地への建て替えが妥当だという結論が出されておるわけですが、私が、独自に、歩いている多くの市民の皆さんから聞いた感覚では、やはり有明海沿岸の海岸沿いに病院を建てることについては、「非常に災害の危険性が高いのではないか」という意見と、荒尾市全体の人口の重心、いわゆる人口の集中度合いを考えたときに、「市の最も西端部にある場所が果たして市民全体の市民病院としての建てる場所として適当であるのだろうか」という疑問が多く提示されておりますので、私は現地も含めたところで、いくつかのこの基本構想・基本計画の中でこれまで（検討されてきた候補地）、例えば野外音楽堂跡とか、市営住宅の大和団地跡とか、聖人原とか、いろいろな候補地が示されておりますので、これまでの検討経過は十分参考にしながら、競馬場跡地以外の場所で新たな建て替え地を検討するのが適当ではないかと考

えておりまして、私はこれまでの成果を十分活かしながら、参考にさせていただきながら、場所については改めて競馬場跡地以外の候補地について検討させていただいて、市民の方々の理解も得ながら、できるだけ速やかにこの問題については進めていかなければならないと考えております。

私が特に競馬場跡地について（建設地として）適切ではないと考える理由としましては、公共施設もいろんな公共施設があるわけなんですけれども、例えば図書館とか公民館とか、いろいろございます。ただ、病院につきましては、24時間365日、患者様とかその支援をサポートする医療スタッフが常にいなければならない施設で、それがいわゆる台風、荒尾は特に台風の高潮被害を受ける可能性の高い地域なんですけど、被害を受ける可能性の高いところにそういう重要な公共施設があつていいのだろうかというのが根本にございます。戦前ではありますけれども、競馬場跡地の堤防が崩れて、海水が荒尾駅周辺まで流れたという苦い歴史がございますし、津波に対する市民の心配、高潮に対する市民の心配は随分あると思います。図書館とか公民館であれば、台風が接近するならば閉館・閉鎖すればいいわけなんですけど、病院はそういうわけにはいきません。しかも、災害拠点を目指す病院であるならば、できるだけ災害の少ない場所に適地を求めなければ私はないと考えておりまして、建て替えについては本当、早急に進めていかなければならないと考えておりますが、場所については、再度皆様のお知恵をいただきながら、市民の皆様の意見を聞きながら、病院は今後30年、40年、50年と、市民の財産として使っていかなければならない重要な公共施設でございますので、災害が極めて可能性の少ない、どこにあつても災害の可能性はあるわけなんですけれども、その中でも少しでも危険性の少ない場所に私はなければならぬと考えておりまして、この件については引き続き皆様のお知恵をお借りしたいと考えております。

小野会長 確かに、答申では競馬場跡地をそのまま（委員の）皆さんの意見に書かせていただきましたけれども、災害について高潮とか調べましたが、（現在、改修工事を行っている堤防は）県の基準にも沿っているし、そしてその（高潮の危険性についても）カバーしているという報告を受けていますし、もし市長さんがその懸念がございましたら、（建て替え候補地として）競馬場跡地をゼロにするのではなくて、そこも含めて、私どもが市民にもう少しきちんと説明をしておけば良かったなということもあるんですけれども、市長さんのご懸念は十分分かるんですが、今の四つ、現地建て替えは少し難しくなっていると思いますが、他の土地も含めて、競馬場跡地をはじめから疎外しないでご検討いただきたい、それだけお願いしたいと思います。

山下市長 その辺につきましては、会長の意見も踏まえながら、やはり、市民にとって大切な公共施設でありますので、もうちょっと市民の方々の意見を聞いたところで、一番、大方の市民の方々が納得・理解できる

ような場所であってほしいなと思っております、引き続き検討をさせていただきますと思います。

小野会長 私たちが検討する中で、やはり病院だけポツンとあってはいけない、今からは、まちづくりの拠点が病院になる時代、高齢化社会で、その横に年寄りが遊んで過ごせるマーケットがあって、遊び場があって、憩いの場があって、そういう都市プランのモデルを作っていたいただきたいなという思いから、そういう方針になりましたので、ぜひご検討いただきたい。

山下市長 先程、小野会長からお話がありましたように、国の方も地方創生ということで、かなり予算化をしておりますし、今後わが国の人口減少・少子高齢化が進む中であって、病院の機能はますます重要になってくると思います。この荒尾のまちも30年40年100年の大計に立って、やはり病院を（建てるのに）それにふさわしい場所、ふさわしい機能を備えていかなければならないと思っておりますので、皆さんの英知をお借りしながら適切な判断を今後下していきたいと考えております。

藤瀬副会長 病院というか、病院だけでなく今からは、保健・福祉・介護との連携が必要になってくると思いますので、そうなると、ある程度の広さが必要になってくると思います。それから市民の負担、これは経済的に一番負担のない場所でなければならぬ。現地開発するということになりますと途方もないお金の負担がかかります。そういうところもぜひ考えていっていただきたい。

今後も市民病院の急性期の機能が絶対必要になるのは間違いないので、荒尾市民病院というのは有明地区、これは玉名も含めた有明地区の中で一番、古くからこの地域の中核病院としてなってきた歴史があります。できるだけ早く建て替えていただいて、そして先程から言っている人材です。そこで人が24時間365日体制で皆一生懸命頑張っているわけです。その人たちが安心して働けるようなところを、ぜひ早めに建て替えていただきたい。これ（基本構想・基本計画）は何年間も（検討に時間が）かかって、今（やっと）あり方検討会が答申したものであり、そのことは市長さんもお存知と思いますが、これ（再検討）はあまりにも酷いのではないかと私は思っている。

（新病院建設の検討は）医師会と一緒にあって、行政がぜひやっついていかないといけないことは間違いないので、そのことをぜひご理解の上、考えていただきたいと思っております。

小野会長 付け加えさせていただきますけれども、私もいくつかのこういう（病院の検討をする）立場にあって検討した中で、一番の問題は医師会が反対することなんです。ところが、ここは医師会が全然反対していないという極めて大きな利点があります。その点も検討を進めていく上で一つの大きな要素だと思いますので、よろしくお願ひします。

坂井委員 私も同じような意見になりますが、小野会長がおっしゃられたように、競馬場跡地がはじめからゼロではないようにお願いします。

それから、この検討会ですが、先程（市長が今後も引き続き検討してほしいとの）お話を聞いていて、私はどうしたらいいのかなと思いました。新たに（一般の市民の方も）参加される検討会になるということですが、私は（検討会の委員に就任したのは）途中からではごさいましたけれども、これまで私たちがいろいろ検討し時間をかけて意見を申して出した結果でございませぬけれども、その新しい委員の方々と一緒になって今のような同じことをやっていけるのかなと戸惑いがございませぬ。

山下市長 それにつきましては、今挨拶の中で申し上げましたけれども、これまでもあり方検討会の皆さんに検討いただいておりますので、引き続き参加していただければと思います。新たに市民の意見をもう少し取り入れたいと考えておりまして、何人かの方々に改めてあり方検討会に参加していただきたいと考えております。

それと、これまでの報道等で「現地建て替えを基本にし」と申ししてきましたが、現地建て替えにこだわっているわけではなくて、つい数年前にがんの放射線治療センターや院内保育所とかの新たな投資を行っているわけですから、それに対して市民の皆さんから、そこからよそに移るとなると、その投資が無駄になるのではないかという疑問が呈されております。ですから、私はその分の投資も含めたところで、他の考えられる候補地とのいろいろな費用対効果・経済的なことをお示ししてやっていかなければいけないということでそういう話をさせていただいたわけであって、必ずしも現地建て替えにこだわっているわけではございませぬ。

先程会長がおっしゃったように、現地は非常にすり鉢状の狭い空間です。しかも、周辺には住宅地が張り付いておりますので、なかなかそれを拡張して拡大するには、またそれなりの時間と費用を費やすことも考えられますし、増幅経費でどれくらいかかるか分かりませぬ。その分も含めたところで深く検討して行って、大方の市民の皆さんが納得できるような場所が一番適切であると考えております。

そういう意味も込めまして、引き続きこれまでいろんな角度から検討いただいた委員の皆様方に、ぜひ引き続きこの会に留まっていたいただき、私の方からお願いを申し上げまして、検討していただければと思います。

皆さんとともに、新しい病院が具体的な形になるまで、引き続きご支援をいただければと願っております。

小野会長 今、市長から、既にかんセンターに投資しているというご発言がありましたが、ここで少し説明をお願いしてよろしいですか。

荒牧副院長兼 今おっしゃいました放射線治療センター、それから駐車場、院内保

事務部長 育所これら全額で5億2千4百万円かかっております。それに対して、補助金等を1億4千万円ほどいただいております。実質的には（病院からの手出しとしては）3億8千万円ほどになります。この中で、例えば、医療機器などは減価償却しますので、（放射線治療機器は）2億5千万円ほどのものですが、もう4年ほど経っておりますので、あと5年後というとき全て償却が終わるということになります。また、建物等についても減価償却を加えていきますので、（放射線治療センターの建物については）最終的に5年後とかの時点では1億円ほどの価値になるのではないかと考えております。

その反面これを作ったことによって、保育所は、職員、看護師、ドクターもそれがあつたから来てもらっているし、放射線治療センターにつきましても、リニアックという放射線治療機器は、がん拠点病院には必須の条件ですので、その1億円が無駄になったとしても、5年後に移動するとしても十分に元は取っていると思います。

山下市長 その辺につきましても、市民に分かりやすく説明していかないと、なかなか外形からしか市民の方は見えないものだからですね。（投資が無駄ではないということは）分かりました。

鴻江委員 今回のこと（新病院の建設）で、非常に夢を持って将来像を描いているというドクターもいらっしゃるということを聞いていて、このこと（建て替えの再検討によりスケジュールが延びること）で非常にモチベーションが下がってくるということも伺っています。

できましたら、ドクターを確保するという事は非常に難しいことで、今やっと大嶋先生たちが非常に努力なさって、今の体系を築いてこられていますので、これ以上ドクターの方々のモチベーションが下がらないように、ぜひこういう（建て替えへの歩みを着実に進めていく）状態をしっかりと続けていただく、これは跡地がどうこうということよりも、住民の安心安全というのはドクターがいてこそその部分ですので、そういったところはぜひお願いしたいと思います。

小野会長 私個人的にも医師の確保をお手伝いしたいと考えておりますし、大嶋先生の抱持ちでも歩きたいと考えていますし、一度聞いたことがあるんですけども、今どうにか医師が大分増えてきて、もう一歩なんですね。ただ診療科を一つ増やすまでは行かないので、その部分の努力を基本計画にしたところです。

鴻江委員が今言われたことは、（病院の建て替えが決まって）丁度今燃えたんですね、病院が、（職員の）意識が、やるぞーというのが。そこで、山下市長が水を差すというようなことを（おっしゃって）皆が意識してもらっては困るので、今日、できるだけ早期に建てるとおっしゃっていただいたんで、私たちも今日みんなではそれは意気を感じたいと思います。

いずれにしても、荒尾市民の命を守る病院を建てたいので、きちんとしたものになってほしいなと思います。

山下市長　私も小野会長と全く同じでございます。私は市民病院の建て替えが必要でないと言ったことは一度もありません。建て替えは必要だと思っております。ただ、場所についてはもっと考えていく必要がありますよということを申し上げただけで、今の現状を考えますと、本当に今のままの状態にしておくわけにはいきません。やはりできるだけ速やかに、方向を示してスピードアップを図っていかなければならないものだなと思っておりますので、できるだけそれが形になるように、皆さんとともに力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【報道機関からの質疑】

記者　新しいあり方検討委員会、これは先程もおっしゃっていましたが、今のメンバーがそのまま残って、それで今度は市民代表みたいな方を何人くらい入れる予定ですか。

山下市長　その辺については、今後検討させていただきたいと思えます。方向性としてはそういう方向だということです。

記者　今のメンバーの方が残ると、競馬場跡地には移転しないというのが市長の公約で、この前（就任後の記者会見で）も改めておっしゃっていましたが、それ（競馬場跡地への移転）も含めて再検討するということになるんですか。

山下市長　特に場所についてですね、再検討をお願いしたいと思えます。

記者　競馬場跡地も可能性はあるわけですか。

山下市長　先程、小野会長からゼロにしないでくださいという話があったけれども、私は可能な限り気持ちとしてはゼロなんですけれども、今後それについても、皆さんから十分意見を聞いたところで進めていきたいと思っております。

記者　検討組織の分、補足してお尋ねします。現メンバーには引き続き残っていただいて、そこに市民の方が参画するという形なんですけれども、市長選が終わってからと就任会見でおっしゃっていらっしやった『現在の検討会に代わる組織』ということは、もう軌道修正という形で見てよろしいのでしょうか。

山下市長　代わるというか、新たにメンバーを付け加えるということです。

記者　全く新しい組織として、おっしゃっていらっしやいましたよね。当

初はですね。

山下市長 全く新しい組織として発言したようには思っていないんですけれども。

記者 具体的に、「公立病院の経営に詳しい方をまた探して、新しい組織を立ち上げた上で、再検討する」という風に、しっかりとはっきりと説明されていたわけですから…。別に今日おっしゃっていることが良いとか悪いとかいうわけではないんですけれども、一応事実としては若干、小野会長からの要請を酌んだ形として修正されているような風にお見受けしたんで、そここのところを確認しているんです。

山下市長 これまでのあり方検討委員会の成果は、十分活かしていかなければなりませんし、やはり市民病院の問題について、これまでいろんな角度から議論がされておりましたので、それはやはり踏まえた上で前に進めることが、やはりこれが本来の姿であると考えていますし、市民病院のことについて、本当、日夜真剣にご検討ご尽力いただいた皆さんでございますので、私は皆さんを大事にしながら、それに新たに今回のいろんな市民病院の問題について、いろんな市民の意見があるというのを私自身肌で感じておりますので、その分の補強・補足・補完ができたかなという風に考えております。

そういう意味で、今のあり方検討委員会の委員の方々に引き続きお願いするとともに、少しその分補完しなければならない部分については補完をさせていただければと考えております。

記者 むしろ刷新というよりも補完という形になるんですね。

山下市長 はい。

記者 市長にお尋ねしますが、今のあり方検討委員会の先生方に残っていただきたいというのは、これはあくまでお願いベースということでしょうか。

山下市長 はい。

記者 分かりました。それでは次に小野会長にお尋ねしますが、つい今しがた市長は、小野会長が競馬場跡地をゼロにしないでほしいとおっしゃられ、市長は「私としてはゼロだ」という風におっしゃったんですけれども、そういうことを踏まえて、委員として残っていただきたいというお願いベースということであったんですけれども、仮に先生方皆さん残られたとしてですね、そもそも議論が成り立つのでしょうか。

小野会長 そこは難しいですね。難しいですけども、僕もこれ長いことやってきて、あんまり荒尾と縁がなかったんですが、荒尾が好きになって

きたんですね。でこういうことになって残念なんです、山下市長とも昔から知っているんですね。人間のしがらみは嫌ですね。

もうちょっと僕も考えます。このまましていいのかどうか疑問なんです。これを引っ張って行って。ただ、大嶋先生の顔を見たら、大嶋先生の背中を押して市長と対決せないかんかなとか、いろいろ考えながら話を聞いていました。

記者 先程市長が返答で競馬場跡地が適切でないにご回答された部分をもう一度お話いただきたくてですね。今回市長が競馬場跡地を再検討の場所からゼロと考えられる理由をもう一度お話いただきたいです。

山下市長 繰り返しにはなりますが、数ある公共施設の中で病院というのは、24時間365日、患者さん、それを支える医療スタッフが常時いなければならない施設です。そうであるならば、災害が極めて少ない地域でなければならないというのが私の基本的な考え方です。

荒尾は全国的にも災害の少ない場所です。地震も少なく、水害もなくてですね。ただ、唯一心配されるのが台風による高潮被害です。

そういう病院をわざわざ競馬場跡地という海岸べりに作る必要があるのかというのが一つございます。それと先程も申しましたように、過去（戦前）堤防が切れて、海水が流れ込んだという歴史もあるわけですね。そういう危険性を私は限りなくゼロに近づきたい。

それともう一つ、災害が起こったときに、一番活躍しなければならないのが病院です。あそこ（競馬場跡地）は海拔0メートル地帯です。当然、今国道（389号）よりも低いので、土盛りなど造成をしなければなりません。ただ、緊急車両の通過等を考えたときに、海拔0メートル地帯に近いところに病院があつていいのか、仮に病棟が2階、3階上といっても1階が浸かってしまったならば救急車両の搬入等ができない。それと災害が起こったときに多くのけが人とかが集まってきます。そのときに、そういう台風災害の危険性の高いところに病院があつていいのか、これを私は心配をします。公民館とか図書館であれば閉館をすることはできますが、病院はそういうわけにはいきません。

それと、もう一つが市民病院ですので、全体の荒尾市民にとって利便性の高い場所でなければならないのではないかと考えております。そのときに考えたときに、一番地理的に西の端っこというところで、多くの市民の利便性を考えたときに建設場所としていかなものかと、あと、JR鹿児島本線の存在とか消防署も今回東屋形の方に移って参りましたけれども、ここの連携等を考えたときに、果たして競馬場跡地が適切な場所であるのか。

それと先程小野先生がおっしゃった今後の地域創生、まちづくりを考えたときに、介護施設、いろんな買い物施設など、市民にとって利便性の高い施設を考えたときに、本当に競馬場跡地でいいのか、やはり総合的に考えたときに、私は、競馬場跡地がいいとはなかなか言いがたい立場でありまして、それは先程申しました、私はいろんな市民

の方々と話して肌で感じている感覚でもありますので、改めてこの中に市民の方にも入っていただいて、客観的な議論がその場所等についてできたらと思っております。

繰り返しにはなりますが、病院の建て替えについては、本当できるだけ速やかに行わなければならないと考えております。それで、これまで市民病院についていろんな角度から研究され検討され、そして市民病院を大事に思っている委員の皆様にも、引き続き最後まで関わっていただければと願っております。

記者 本日答申が出されましたけれども、答申の取り扱いについてはどうされるのか、その辺りを確認したいんですけれども。答申は答申として受け取られるということによろしいんですね。

山下市長 はい。

記者 そうすると、今日の答申は、『本計画の推進にあたっては、下記の事項に留意され、その実現に努められるように切に希望します。』（と記載されており）、要は計画を実現してほしいというような中身の答申なんですけれども、根本のところ意見が違っておりますけれども、場所ですね。その中で、どうされるんですか。答申は答申として受けとられて？

山下市長 先程私、挨拶の中ででも申しましたけれども、この答申について十分に参考にさせていただきたいと。

記者 参考とおっしゃるのは、これからの検討の参考に？

山下市長 はい。

小野会長 海側の件で一つだけ言っておきたいことがあるんですが。千葉に亀田総合病院というのがありまして、本当に海側です。そこは何もないところに建てた病院ですが、そこを拠点として大きな10万人のまちを作る構想をやっているんですね。私もよくは知らないんですけれども、一度市長も何かで見といていただければありがたいんですけれども。非常に良いものができていますので。

山下市長 はい。私も海岸沿いにある病院は実際拝見したことがあるんですが、上天草なんかは本当海岸沿いにありまして、ただ、上天草の土地の状況が海岸べりにしか平地がないという特殊事情もございます。

私が気になりますのは、基本構想にもありましたように、出来るだけ今後の維持管理費がかからないような病院にしていかなければならないと思いますが、やはり海岸沿いでありまして、いろんな機材、器具、建物も含めてですね、耐用年数に多少なりとも影響が出るのではないかと考えておまして、そこも一つ考えていかなければならない

と思います。病院は長く使っていきますので、今の病院も昭和40年代にできて、40年以上使っています。新たに病院を建てるとなると、当然その辺のランニングコストを考えていったときに、維持管理費ができるだけ低くなるような、またエネルギー高熱水費についても新しい太陽光などいろんなものを取り入れながら、できるだけコストを低く抑えていく努力をしていかなければならないと考えたときに、海岸沿いは本当果たして大丈夫かなという懸念も持っております。

記者 新しいあり方検討会なんですけど、これは（先ほど市長が）速やかに病院を建てたいということでおっしゃってたんですが、実際に発足させる目標の、例えば年度内だとか来年度内には作りたいとか、そういう目標みたいなところはありますか。

山下市長 この病院の問題は市政で非常に大きな問題ですので、市議会へは当然説明していかなければなりませんし、重要な政策課題であると考えております。今の予算のスケジュールを考えておりますと、当初予算はいわゆる骨格予算、6月に肉付け予算となりますので、遅くとも6月の補正予算には間に合わせたいと考えております。

記者 市長に確認ですけれども、当初の印象からもう一つ変わったなと思ったのが、今日『できるだけ速やかに』というお言葉を繰り返しお使いになっておられます。

就任会見のときにも強調されていましたが、『時間をかけてじっくりと検討したい』と。それで新しい組織を立ち上げた上で、いつまでに結論をと明確にお尻を決めるということを急ぐよりも、しっかりと市民と向き合いながら議論・対話を重ねるということを強調しておられたんで、今日『速やかに』という言葉が出たのがちょっと意外だったんですけれども…。

この心境の変化というものは何か根拠があるのでしょうか。

山下市長 先日、市民病院の現場をくまなく歩かせていただいて、もちろん今後40年50年以上、市民の皆さんに使っていただく施設ですので、本当にじっくり検討したい気持ちは十分あるんですけれども、ただ本当現場の今の現状を考えたときに、今のままではいけないという風なものもありまして、そういう言葉を使わせていただきました。

記者 かなり老朽化の現状というのを目の当たりにされて、速やかに建て替えなりの対応が必要であるというのをお感じになったと。

山下市長 はい。表も裏もくまなく歩いた結果ですね、これは今のままではいけないと。

記者 市長は今まで（選挙公約として）『現地での建て替えが基本だ』という言い方をされておりましたけれども、今日のご発言を聞いてみると、

他のところも含めてということで、現地だけにこだわっているわけではないという認識でよろしいんですね。

山下市長　はい。先程話しましたがけれども、市民の目から見ると、最近整備したがんの放射線治療センターとか院内保育所とか、新たな施設整備に対して、他の地域に移すとその投資が無駄になるのではないかと、それと閉鎖になった病棟もあるという意見も根強くあります。その辺を加味すると、現地建て替えを基本にと私としては発言せざるを得なかったということです。

坂井委員　繰り返しもなりますけれども、おっしゃった海岸にあること（の影響）など、全てこの検討会で検討された結果でこういうことが出たわけですので、決して私たちのこれまでの議論・検討が無駄にならないようによろしくお願いいたします。

山下市長　はい。